

【岐阜高専】「岐阜高専生、美濃市でパネル展 うだつの町並み理想図を設計」

本校の建築学科4年生の「建築設計製図Ⅱ」で取り組んでいる「地域課題解決にむけたまちづくり計画」として、令和5年度の歴史的街並みである美濃市「うだつの上がる町並み地区」を対象とした、空き家・空地を利活用した地区の再活性化を図るためのまちづくり計画の提案の優秀作品の展示が新聞で取り上げられました。

岐阜新聞朝刊 2024年5月1日掲載

岐阜新聞 2024年(令和6年)5月1日 水曜日



うだつの町並み理想図を設計

岐阜高専生、美濃市でパネル展

空き地活用、交流を重視

本報市上真桑の岐阜工業高等専門学校(岐阜高専)の建築学科4年生約40人は、美濃市中心部の重要伝統的建造物群保存地区「うだつの上がる町並み」の空き地などを活用したまちづくり計画を考案した。学生は専門知識を踏まえ、現地調査をした上で、若い感性で考えた計画案を1人1点ずつ提案した。優秀作品3点を、5月10日まで同市役所でパネル展している。

「建築設計製図Ⅱ」の授業の一環で、建物や設計図を通して地域課題の解決策を探る取り組み。学生は昨年10月に町並みの視察調査をし、伝建地区内に30軒空き家がある現状や課題について、市や利活用を進める地元企業から聞き取った。人口減少対策や観光地としての魅力向上など課題を挙げ、交流拠点施設や町並み風景を具体的に平面図やイメージ図で描いた。

早矢任怡佳さんは奥行き長い長屋造りの建物構造に着目し、「再呼吸スル伝建」と題して地域活性化計画を提案。休憩所を奥に設けた階建て施設を平面図で示した。早矢さんは「カタチの設計ではなく、人がつながり合う伝統の風景を設計した」と狙いを語った。他にも古井戸を廢外

キッチンとして生かすアイデアや、図書館を設けて人が緩やかに滞留する仕組みを考えた作品もあった。

同科の鶴田佳子教授は「いずれの作品も町並みの現状や課題を深く探り、具体的な計画にまとめている。アイデアが幅広く社会で活用されることに期待したい」と話した。

5月13、31日は、同市泉町の吉田工房で展示される。